

いばらきサイエンスキッズ育成事業(令和3年度～)

効果的な指導法プレゼンテーション

令和4年1月28日(金)に、いばらきサイエンスキッズ育成事業「効果的な指導法プレゼンテーション大会」をオンラインで開催し、約100名の先生が参加しました。この事業は、自作教材やICT等を活用した事例を県内の先生方から募集し、プレゼンテーションすることで、教員の指導力を高めるとともに、その成果の普及により、児童生徒の学力向上に資するものです。

発表は、多くの作品の中から優秀賞を受賞した7名が行いました。ここでは、笠間市立笠間小教諭の廣澤龍先生と東海村立舟石川小教諭の舛谷直樹先生の取組を紹介します。

廣澤龍先生の発表

テーマ「台風のメカニズムによる自作教材」

廣澤先生は、「台風の西側と東側で台風の被害に差が生じるのはなぜか」という児童の疑問を解決するための教材として作成しました。

自作教材は、台風の衛星画像だけでは捉えにくい風の影響を視覚的に捉えることができます。児童からも「台風の風の様子が分かった」「風の向きと台風の被害がよく分かった」と自作教材が児童の理解に繋がったことが分かります。

安価な材料で簡単に制作できる教材であり、参加者から「ぜひ参考にしたい」という感想がありました。



【台風の動きを視覚的に捉える自作教材】



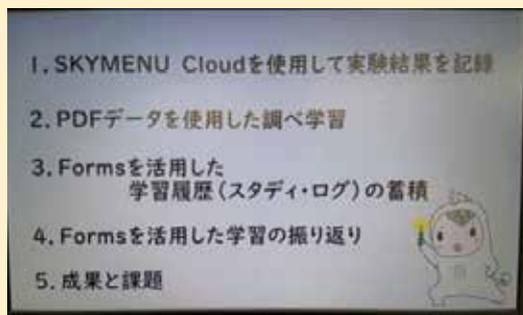
【発表中の廣澤先生】

舛谷直樹先生の発表

テーマ「ICT機器の活用を通して、児童の『わかる・できる』喜びを実感させる学習活動の工夫」

舛谷先生は、QRコードを使って簡単に振り返り画面を出せるようにしたり、結果や考察をノートの画像か直接入力か提出方法を選択できるようにしたりと、全ての児童が学習意欲を削ぐことなく取り組める手立てを講じていました。また、Formsを活用した学習の振り返りは、児童の考えを簡単に素早く把握でき、それを次時の授業に取り入れることで、児童の学習の意欲向上や働き方改革にもつながりました。

児童の実態把握に悩んでいた先生からの共感を得ていました。



【ICT等を活用した授業の取組】



【振り返りで使用したQRコード】